

9月例会「光にふれる」(台湾映画)

「映画大学 in 呉」参加報告

今年の夏も終わろうとしています。毎年のように日本列島のどこかでは、猛暑や水害が起こりますが、加古川では、暑さもほどほどで、ちょっとした浸水はありましたが、大きな災害の無かった穏やかな夏だったと感じています。

映画では、アンデルセン童話の「雪の女王」をヒントにしたディズニーのミュージカルアニメ『アナと雪の女王』が記録的なヒットで、老若男女が主題歌を口ずさむという社会現象にもなっています。また、人情感動作を得意とする山崎貴監督と八木隆一監督の国民的アニメ『STAND BY ME ドラえもん』も好評とか。

アニメ映画だけが混雑している映画館に行って、「これで良いのだろうか？」というちょっと複雑な気持ちになります。これは、作る側と観る側の両方に対してです。アニメでなく俳優が演じる良質の文芸映画にも期待します。

さて、7月26日には特別例会として、『じんじん』の上映会を行い、会員105人と一般393人の来場がありました。いつもと異なった形態のため、来場者が少ないのではないかと心配していましたが、共催団体が熱心にPRをしていただいた遊文庫の皆さまをはじめ加古川総合文化センターなど、関係者の皆様のおかげで、盛況のうちに終了いたしました。深く感謝申し上げます。また、記念講演会では、笹倉剛先生から「絵本を通じた交流と町おこし」について明朗なお話しをいただきました。



笹倉剛先生講演のようす

加古川シネマクラブの運営状況については、会員数が減少し厳しくなっています。7月例会は共催の特別例会としたため持出しは少なかったのですが、9月例会を経て11月例会終了時には赤字に陥る見込みです。根本的な解決策は未だできていませんが、会員の皆様には、入会者が増えるようお知り合いの映画好きの人にこの会のことを伝えたり、特別例会など主催上映会の時にPRいただくなど、今後とも引き続き、ご支援ご協力をお願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第74回例会『光にふれる』

■日時／9月18(木) ①PM 2:00—、②PM 4:20—、

③ PM 6:40—

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しく下さい。

入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

■タイトル／光にふれる

(原題／逆光飛翔、英題／TOUCH OF THE LIGHT)

■監督／チャン・ロンジー

■出演／ホアン・ユィシアン、サンドリーナ・ピンナ、リー・リエ、シュウ・ファンイー

■データ／2012年制作、台湾、110分、

2014年8月本邦公開、ドラマ／音楽／青春

■解説／生まれつき目が不自由なユィシアンは、たぐい稀なピアノの才能を持ちながらも、幼い頃にコンクールで起きたある事件がトラウマとなり、表舞台に立つことができなくなっていた。ピアニストを夢見るも、叶える術を知らないユィシアン。そんな彼をいつも近くで見守ってきた母は、心配な気持ちを抑え、彼が将来音楽を仕事にして自立できるようにと、台北の音楽大学に通わせることにする。

家族と離れた都会での暮らしや、健常者であるクラスメイトとの間にはだかる壁は、彼に大きな戸惑いを感じさせ、不安な毎日が過ぎていく。

ところがそんな彼の生活は、ダンサーを夢見る少女、彼の音楽と人柄に惹かれて集まった仲間との出会いによって光に満ち溢れた世界へと変わってゆく—

厳しい現実の中でも夢を追い続ける彼女にももらった勇気と、垣根のない仲間たちの友情に支えられ、ユィシアンは、夢に向かって飛翔していく—

(作品ホームページから抜粋)



「映画大学 in 呉」参加報告

7月19日から21日までの3日間、毎年恒例の映画大学が広島県呉市で開催されました。映画大学は、映画鑑賞団体全国連絡会議と地元の映画サークル(今年は呉映画サークル)が主催し、映画関係者を講師にお招きし、映画を愛する仲間たちが映画三昧の3日間を過ごすイベントです。

今年は、加古川シネマクラブの会員5名が参加しました。

映画大学に参加して

今年の夏は多忙だったが、いつものように充実していたと嬉しく振り返っています。それは、加古川の仲間の皆さんと2泊3日の「映画大学 in 呉」に参加し、少々高い授業料だとは思いますが、とても貴重な、映画づくりに関する勉強漬けの幸せな時間を持ちました。若い人、老いた人と生徒もスゴイ!!が講師もスゴイ!!**周防正行、高畑勲監督**の映画づくりの奥義の一端にふれ、私を魅きつけて止まない『火の魚』の**黒崎博監督**に出会い、撮影現場でのすさまじい粘りが、センスの良い想像力と人間に対する深い愛と尊厳が静かに胸に浸み込んで来る作品になるんだ。小さなお身体の脚本家**渡辺あや**さんの胸にストーンと落ちる台詞の力に感服!!お二方との出会いは、私の生きる力の源のような人なんだろうと思う。また、**尾野真千子**さんがとても良かった!!女優さんとして良い



ネ~と思える作品になりました。ちょっと大変でしたが、大切なこと、豊かさ、元気を貰って帰ってきました。皆さんも来年はどうぞ!! (瞳)

映画大学 in 呉終了後のオプションツアー

今回、初めて3日間通して映画大学 in 呉に参加しました。素晴らしい講師陣と呉映画サークルスタッフのアイデア豊かなおもてなしで、胸いっぱいお腹いっぱい3日間でした。

が、しかし私には特別な一日が翌日(4日目)に待っていました。3日目の講師であった**高畑勲監督**と巡るとびしま海道ツアーです。案内役の呉映画サークルの3名と加古川シネマクラブ2名の計6名で、呉から下蒲刈島~上蒲刈島~豊島~大崎下島~大崎上島~大三島~生口島~尾道と、セレクトされた名所を訪ねながら、また、車から眺める瀬戸内に浮かぶ島々の景色も楽しみました。

最初、私は緊張していたのですが、高畑監督は物静かで丁寧な話し方で、私は常に聞き入っていました(ちょくちょくご自身で話された直後に、ははは~とうれしそうに笑われる)。あと健脚なことにも感心しました。

皆でてくたく歩いて大山祇神社の大楠(生樹の樹)を見上げたこと、お祈りしたことは良い思い出となりました。日も暮れ、お世話になった呉映サの方々とは尾道でお別れして、高畑監督と私たち(加古川シネマ2名)は新幹線の岡山駅までご一緒しました。車中では、呉映サの方が持たせて下さったパンを3人で分け合いながら、最後の最後まで心もお腹も満たされた一日となりました。誘っていただいた岡本さんに感謝!!



(せん)

前回例会の報告

7月26日の例会は、俳優の**大地康雄**が「絵本の里」として全国に知られるようになった北海道上川郡剣淵町を舞台にした映画を企画し主演制作した『じんじん』を鑑賞しました。

わかりやすいヒューマンドラマで参加者からも好評を得ました。「大地康雄が『男はつらいよ』の寅さんと重なった。」という感想もありました。

特別例会として開催したもので、参加会員105人、一般393人、明石シネマクラブから7人参加。

明石シネマクラブ例会情報

■名称/『ベニシアさんの四季の庭』(2013年、日本、98分)

■日時/10月16日(木) ①PM2:00-、②PM4:30-、③PM7:00-

■場所/アスパシア明石9階子午線ホール(JR明石駅東徒歩5分)

■目的・内容/加古川シネマクラブと明石シネマクラブの交流事業として、映画鑑賞の機会を増やし新入会員を増やそうと、例会に相互参加できるようにしています。(2015年5月まで、好評であれば延長します。)

■受付/会場受付で、①加古川の会員であることを証明するもの(氏名が記されている例会参加券が送られてきた封筒など)を提示し、②鑑賞希望であることを告げて、③受付簿にサインする

■明石シネマクラブ TEL 090-3860-6662

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/cinemaclub>

会員数154人(7月26日現在)